



九条の樹

111号
2025年4月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：Tel 042-473-9489 (鈴木)
http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

戦争ぜつたいいやだから！！

「憲法9条の碑」 建設ラッシュ

政府による「壊憲」の動きに対抗し、憲法9条を記念碑という目に見える形にして大切さを訴える市民運動が全国で展開しているのです。2018年には18基でしたが、7年後の今や52基で、5月の段階では58基に増えます。まさに建設ラッシュ。政府の暴走を放っておかない市民の固い意志が、硬い石となって表れているのです。



府中市9条の碑

昨年5月、東京・府中市で三多摩初の9条の碑が除幕されました。東京で2番目の9条の碑です。

府中の碑の特徴は、住民が提供

した土地を公園として整備し、アヒルを抱いた女性の彫刻と9条の条文碑を置いたことです。平和の象徴とされる鳩でなくてアヒルと聞けば、「なぜ？」と問いたくなるもの。制作した地元彫刻家、久保さんは「平和は飛んでくるものではなく、ヨチヨチでも一歩ずつ自分から歩んで築くものです」と語ります。その発想の背後にドイツの哲学者カントの「永遠なる平和のために」があると云います。もう一つの特徴は、これが地元の市民の文化運動から生まれた碑だということ。府中市で「反核・平和、環境保全、福祉」を掲げて毎年コンサートが続けてきた「けやき平和コンサート」を開いてきた合唱団が母体です。全国の9条の碑の中で、市民の文化運動から誕生した碑はこれが初めてです。

なにせ敷地の建設から始めたのだし、彫刻という芸術作品も創作

したため、1100万円もの高額がかかりました。寄付を寄せたのは800人以上。うち330人の名が碑に刻まれています。その中には吉永小百合さんの名も。(伊藤千尋さんのフェイスブックから引用)



岐阜市「みどり病院」

「戦争ぜつたいいやだから！」会の発足の時に呼びかけた言葉です。発足から20年経ちました。いまだに憲法9条は変えられてはいませんが、憲法を無視したかのような法案が次々と成立し、日本を「戦争のできる国」にかえていくとする動きが加速しています。

2025年10月11日(土)に東久留米「九条の会」20周年のつどいを開催します。

記念講演には、『非戦の誓い』「憲法9条の碑」を歩く』を出版された、フリージャーナリストの伊藤千尋さんをお招きしてお話を伺います。ご期待ください。

戦争をどう止める？

ーガザ、ウクライナの戦争と日本の平和ー③



布施祐仁さん（ジャーナリスト）
十月十日講演のつづきです。

台湾有事って何？

台湾と中国の緊張関係はしばらく続くと考えられます。大事なのは第三者が火に油を注ぐようなことをしないということです。今アメリカや日本が現にやっていることは逆に、火に油を注ぐようなことをやっています。なぜいま日本が台湾をめぐる戦争準備を進めているのかということですが、

ど、過去の日本政府の立場との整合性はどうかという説明はまったくありません。日本は1972年に中国と国交正常化しました。この時中国に対して次のような約束をしました。「中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認し、台湾が中国の不可分の領土の一部であるという中国政府の立場を十分理解し尊重する」と表明し国交を正常化したのです。その時、これまで台湾（中華民国）と交わっていた国交を断ち切ったのです。それ以降台湾は国ではないという立場です。

その後の国会答弁でも次のように言っています。「中華人民共和国政府と台湾との間に限らない対立があった。戦争に発展する可能性があると思いませんが、仮にそ

ういうことがありますと、基本的には中国の国内問題であると解すべきだと思います」これがこれまでの政府の公式見解です。麻生さんは中国の国内問題に自衛隊を派遣して介入するということがおかしいですよ。おかしいことの説明が無いまま事態だけが進んでいる。進めている。

政府は今ロシアを批判していますが、ロシアがやったことはウクライナ東部のドンバス地方が一方的に独立を宣言しロシアがそれを承認し集団的自衛権を行使して軍事介入したわけです。もし台湾有事で日本が軍事介入することに国際法上根拠があるとすれば、台湾を国として認めて集団的自衛権を根拠に軍事介入する、ということしかありません。ロシアがやったことと同じことをやるのですか。過去の見解をあいまいにして進めているのが現状です。台湾有事は絶対起こさずにはいけません。日本が戦場になります。戦争

が起きてからどうしようといっても遅い。

戦争止めるために

戦争が起きないような環境づくりを進めているのが台湾の南にある国々、東南アジア諸国連合アセアンです。アメリカと中国に絶対戦争を起こさせはならないという立場で外交を進めています。2019年アセアンは独自のインド太平洋憲章を作りました。アメリカと中国のどちらが覇権を握るかという、対抗の関係ではなく、話し合いをして協力し合う地域をめざすというものです。アセアンはそのために誠実な仲介者であり続ける。対話と協力の外交を促していくというのです。

この構想を主導したインドネシアの外相は、国連演説で述べました。「二つの世界大戦の教訓は軍事ブロックを作って対抗していく、世界の分断です。その結果戦争が起こった」今の状況とよく似ています。「このままいくと第三次世

界大戦になる。」それを防ぐためにインドネシアは新しいパラダイム（枠組み・範例）の提案をします。「ゼロサムではなくウインウイン、競争ではなく協力、封じ込めではなく包摂、信頼関係の欠如は恐怖と紛争を引き起こす」。

ゼロサムというのはゼロか百か勝者がすべて持つていくという競争の世界です。そうではなく、お互いが得になる方向性を探つていくという提案です。

アメリカが日本や韓国、フィリピン、オーストラリアという同盟国を束ねて中国を封じ込めようとしている。「中国など一部の国を排除するのではなく包摂していく」信頼を作つていくことを提案しています。

私はアセアンが提案している方向こそ日本がやるべきことだと思います。そして日本がアセアンと手を合わせれば中国も、アメリカも決して無視できない大きなかたまりになると思います。

インドネシアの外相がこの時最後に言ったスピーチが印象的で

す。「我々は新たな冷戦のこまになることを拒否する。」つまり米中の対立のどちら側にもつきませんよ。大国の駒にはなりません。間に入ってけんかにならないよう仲介者の役割を果たしていきましょよという声明です。日本はどうでしょう。まさにアメリカの駒になつて、あるいは先兵となつて、鉄砲玉になつて中国と戦わせられようとしているわけです。ほんとにそれでいいんでしょうか。良くないですよ。アセアンのようなスタンスで行くべきだと思います。

変わりつつある世界

アセアンと日本が力をあわせれば、大きな力を発揮するし、世界の流れを変えるのではないかと思えます。それは今の世界の変化です。結論から言うとう今の世界というのは一部の大国だけで動かせる時代ではなくなりつつあります。G7は世界の250ヶ国あるうちの7ヶ国の首脳が集まつて世界の課題を解決しようとした。そんな仕組みがまかり通つた時代があった。7ヶ国だけで世界のGD

Pの7割を占めた時期が長かつたのです。今は7ヶ国で4割ぐらいに減つてゐるのです。代わりにブリックスと言われるブラジル、中国、インド、ロシア、南アフリカなどが急成長しています。一部の大国だけが力を持つのはおかしいと、国連でも言われています。

ロシアのウクライナ侵略に対し、国連総会でロシア非難、軍事行動即時停止を求める決議が提案され141ヶ国が賛成しました。法的拘束力はありませんが、過去最高の数です。1979年ソ連のアフガン侵攻避難決議は104ヶ国賛成。1983年アメリカのグレナダ侵攻のときはこの時も非難決議108ヶ国です。2023年イスラエルのガザ侵攻には153ヶ国が非難決議賛成しています。国連は200ヶ国弱ですから4分の3賛成。アメリカの同盟国でもイスラエルを非難しています。発信源はグローバルサウスの国々です。

今の世界はグローバルサウスの国々を無視できない状況に変わつ

てきています。核兵器禁止条約成立に向けた動きです。核を持った大国が支配していることに対する反発です。こうした声が国際社会で高まっています。日本がどの道を選ぶのが問われています。大国アメリカにひたすらついていくのか、アセアンの国々と力を合わせ、新しい平和の秩序を作る側に立つのかです。

去年の8月、共同通信の世論調査で「台湾有事に日本はどう臨むか」という質問に「アメリカと集団的自衛権行使で武力行使に加わる」という人は9%。米軍に対し後方支援でという人が33%。一番多かつたのは外交努力や経済制裁など非軍事的手段で54%です。日本の世論は過半数は非軍事でと言つてゐるのに日本政府は今、9%の人がいうことを全力でやろうとしている。日本の多くの世論とかけ離れてしまつています。これが一番の問題です。

(文責 事務局)

戦争体験記

忘れられない 恐怖体験

堀江紀介

私のふるさととは、栃木県足利市です。足利と言えば歴史の教科書に必ず出てくる日本最古の学校「足利学校」や足利市ゆかりの「饗阿寺（ばんなじ）」など有名です。たくさんの歴史遺産があり、今でも古き時代の面影を残し北の小京都ともいわれています。

街の中央を東西に渡良瀬川が流れ、歌に紹介された夕日のきれいな渡良瀬橋は、高校生時代の通学路でした。

関東平野の北端に位置し、北

に多くの山が連なり、ハイキングコースにもなっています。

古くから桐生、伊勢崎とともに織物の街として栄えてきました。子どものころ近所から聞こえてくるバツタン、バツタンという機織りの音を今でも覚えています。

高校時代まで過ごしたふるさと足利は、山があり、川があり、繁華街がある楽しい思い出の場所であると同時に、戦中戦後の混乱の中で、ひもじくつらい生活を過ごした場所でもありません。

私が五歳のときに戦争が終わりました。そのころ隣の太田市（群馬県）は中島飛行機を中心とする一大軍需工業地帯でした。我が家は飛行場から7キロほどのところにありました。昼、夜となく米軍機が太田の街に機

銃掃射を加えることもありました。

今でも思い出すのは、激しい爆撃の夜のことです。防空頭巾をかぶり母親に負われ、庭に穴を掘って土を乗せただけの防空壕に逃げ込みました。その時に見た太田方面の空は一面真っ赤でした。時おり大きな炎が舞い上がっていました。防空壕の中で母に抱かれ、爆弾のドーンという衝撃音のたびに頭から土砂を浴び、土まみれになりながら怯えるだけでした。

太田の街は焼きつくされ、多くの犠牲者ができました。その時の恐怖心は、私の最初の記憶の一つであり、平和への思いの原点になっているかもしれない。戦中戦後のつらかった記憶を忘れないため、父親からもらった機銃掃射の弾丸をいまだ大切に持っています。

《平和を考える本》

『国民の違和感』9割正しい

堤未果・著

PHP新書 900円（税別）



2020年以降、政府やマスコミの言うことに、もやもやした違和感を覚える人が急増したと言われる。大富豪達が大量に売り逃げる中、日本国民には新NISAで米国株？ 能登半島地震から17日後に政府は地方自治法改正案を発表？ 石川県知事も予算から1000万円を大阪万博関連事業に入れるとか？

麻生氏が米国大統領に約束した水道民営化も着々と進む。民営化後、過疎地の水道は廃止？ 日本中のポロポロの給水管はどうなる？ 有事の際には？

国際ジャーナリストの作者が、世の中にはびこる違和感の原因を徹底分析。未来を選び取るための秘策を明かす。（高田桂子）